

# かささぎ



北京日本人学校  
学校通信 第5号  
平成29年9月27日  
校長 奥田 修也



## 中国でみつけたもの



教頭 山中 正明

中国に来て1ヶ月ほど経ったある日の出来事です。家の近くのバス停からバスに乗りました。それほど遠くへ行くわけでもありませんでしたので、外の景色を見ながら降り口の近くに立っていました。すると、私の後ろに座っていた若い男の人がスッと席を立てて私に「どうぞ」というサインをします。思わず「謝謝」と言って微笑みましたが、果たしてどうしたものか困りました。何しろ生まれて初めて席を譲ってもらったからです。日本では席を譲ったことはありますが譲られたことはありません。「もう自分は若者に席を譲られる年なんだ」と思うと、なぜかすごく悲しくなってきました。ショックでした。譲ってもらった席に座って「これが日本なら席を譲られることはないだろうな。」「そんなに年をとって見えたのかな。もっと若作りの服装をしなくちゃいけないかな」「そうか、これが中国のいい所なんだ。」「お年寄りや小さな子ども連れの人に優しいのは中国の人たちが、小さいときから受けてきた教育の成果なのだろうな。」そんなことを考えているともう、自分が降りるバス停です。さっきの若者にもう一度お礼を言ってバスを降りました。

小学部高学年の総合的な学習の時間に「日本と中国の違い」というテーマで学習したことを模造紙にまとめた掲示物が廊下に貼ってありました。確かに、同じところ、似ているところ、違っているところ、毎日生活していると色々なことに気が付きます。しかし、目には見えない中国の人の心の中に育っているものはなかなか見つかりません。特に日本人学校の中で、日本人と一緒にいる時間が長ければ長いほど、真の中国発見には時間がかかります。校外学習や宿泊学習、修学旅行はそんな日本人社会から外へ飛び出して、中国探しの最良の機会です。たくさんのグローバル人材の卵たちが、中国の良さをたくさん見つけてほしいと思います。

来年4月、平成30年度から小学校の学習指導要領が変わります。色々なことが変わる中で、これまでの「道徳」の時間が、「特別の教科 道徳」に変わります。新しく教科書も各市区町村で採択されています。心の教育は教科書を使った授業だけでなく、学校生活の全ての教育活動、ご家庭での指導、さらに社会の中で学ぶことで身につけていくものだと思います。「お年寄りや身体の不自由な方に席を譲りましょう。」という公德心を、中国ではどのようにして育てているのか。ぜひ、それを学んで日本に持ち帰りたいものです。

さて、私はというと、恥ずかしながらその後もバスや地下鉄で席を譲ってもらっています。そして、もう一つ発見したことは故宮博物館へ行っても、頤和園でも、長城でも、パスポートを見せて年齢を確認してもらおうと入場料が半額になる「シニア料金」があるということです。中国の人たちだけでなく、中国政府にも「ありがたいな」と思うようになった今日このごろです。そういえば、すっかり忘れていましたが9月18日は日本では「敬老の日」でした。中国では1年365日毎日が敬老の日かもしれません。



# 第39回北京日本人学校運動会を終えて

— 飛翔 ～細胞レベルで楽しんでる？～ —

体育部

今年、大気の状態も心配されましたが、9月9日（土）第39回北京日本人学校運動会を新しい人工芝の校庭で盛大に行うことができました。夏休み前から、赤組団長の紺野涼太郎さん・副団長の深谷咲彩子さん、白組団長の木場悠理さん・副団長の飛田梨乃さんが中心となり練習を積み重ねてきました。赤組は応援にストーリー性を取り入れ、白組はダイナミックな隊形移動を行うなどの工夫が見られました。また、本校の特色でもある縦割り班を活かした「ハチノコ」の練習では、小学部6年生が縄を回す役割を担当し、中学部3年生の班長を中心に高学年が低学年に優しく分かりやすくとび方を教えていました。本番当日は、今年も大接戦を演じ、総合優勝は白組が、応援優勝は赤組が掴みました。負けた悔しさもあると思いますが、一生懸命頑張った子どもたちは間違いなく、充実感や達成感を得たことと思います。



運動会終了後の解団式では、赤組と白組のそれぞれの中学3年生が涙を流しながら後輩に感謝の気持ちを伝える姿が見られました。学校全体が一つのチームになれた運動会だったと思います。

また、校庭の人工芝化に伴い飲食場所の制限や校舎内の開放にご協力いただきました保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。

最後に、運動会を温かく見守ってくださった来賓、運動会を支えてくださった父母会、大学生ボランティア、熱い声援をしてくださった皆様に心よりお礼申し上げます。

## 夏休み作品展を終えて

学習部



お忙しい中、夏休み作品展に足をお運びいただき、ありがとうございました。たくさんの方々が来校され、温かい感想をいただきましたことを重ねてお礼申し上げます。今年の作品展も、子ども達の創意工夫が見られる作品ばかりでした。旅行先で見たものや感じたものを絵にしたり、いままでに気になっていたことを自由研究のテーマとして調べたりした個性あふれる作品を見ることができました。保護者の方から「様々な種類の作品があってとても興味深いです。」「子ども達の自由な発想で作られた作品ですばらしい。」という感想をいただきました。作品展の間、子ども達も作品を鑑賞し、実際に触ったり動かしたりすることで「すごい！」という声が聞かれるほどとても刺激になったようです。

作品展を通して何かを形にしたり、関心を持ったことを追求したりする姿勢を日々の生活でも見せてほしいと願っています。

### たぐいま 何人?

小学部 平成29年9月27日現在

小学部			男子			女子			合計		
1-1	9	8	17	4-1	14	9	23				
1-2	9	8	17	4-2	12	10	22				
1-3	8	8	16	5-1	16	9	25				
2-1	9	8	17	5-2	15	11	26				
2-2	8	9	17	6-1	9	10	19				
2-3	9	9	18	6-2	9	9	18				
3-1	15	9	24	小総計	156	127	283				
3-2	14	10	24								

中学部

1-1	9	7	16	3-1	6	6	12
1-2	9	7	16	3-2	6	6	12
2-1	6	8	14	中総計	43	41	84
2-2	7	7	14	総合計	199	168	367

